

個人投資家の目線で考える 投資品マガジン

ji

ジャパニーズ インベスター

No. 62 2009.10.10発行 0円

Japanese Investor

特集
医食同源
健康志向でずむずオーダーレス化

地球に優しい3R
「リデュース・リユース・リサイクル」
循環型社会の形成に向けて



6・R・0

<http://104ka.net>

雑誌1冊に当たるお金の価値を体験してください

Spain / Sevilla

【毒】 確実に変化の風。 景気後退で英語熱が上陸中!

スペイン・セビリア

2008年の土地バブル崩壊後、スペインはEU内でも失業率の一位を争う大不況に見舞われており、中でも観光都市セビリアを抱えるアンダルシア州では、失業率が17%と深刻な状況だ。セビリアの町を歩けば、一見、以前と変わらぬのんびりしているようにも見えるが、そんな中でも小さな変化が現れてきている。

それは、英語を勉強してよりよい職につきたいと考える人たちが増加していること。スペインでは、実は英語を話せる人は多くない。日常生活で英語に接触する機会が少なく、スベルと発音がイコールではないという英語の仕組みが苦手な人を増やしているようだ。

LA FUNDACION DE LAS CAJAS DE AHORROS (貯蓄銀行財団)の調べによると、25歳以上のスペイン人のうち上級英語の知識があるのはたった8%。しかし全体の94%は、英語が必要だと考えているという結果が出た。

EUには、ERASMUS (エラスムス)という大学生用海外留学のための奨学金制度がある。大不況の影響か、セビリアにおける本年度の希望者は、前年に比べ39%もアップしているという。歯科学科専攻の女子大生のAさんは、セビリアの語学学校に通って英語を勉強しているが、この奨学金制度



スペインでの英語の授業風景。みんな必死だが楽しく勉強している。

でイギリスに渡り、そのままイギリスで歯科医になりたいと言っている。というのも、スペインでは、歯の治療に保険が利かないため、この不況が直接影響している上に、セビリアでは歯医者が増えているからだ。卒業を間近に控えた彼女の同級生の中にも仕事が決まっていない人が多いという。イギリスよりも失業率が数倍高く、労働条件が悪いスペイン。少しでも可能性がある土地に移りチャレンジしたいという若者の賭けでもある。

彼女と同じ語学学校に通うエンジニアは、「勤めている会社が、他の国際企業に買収され、他国間とのビデオ会議が多くなった。ネイティブレベルの英語力がないとついていけない」と必死だ。一方、手作り陶器が有名なセビリアに外国人が陶芸を習いにくるようになったのを受け、生徒獲得のために英語を習い始めた陶芸の先生もいる。市場競争があまりなく、のんびり型のセビリアでも、グローバル化と不況の影響により確実に変化が起きていると感ずる。